

# 甲斐山岳

2022年3月 第13号



間ノ岳展望

公益社団法人

日本山岳会山梨支部



# 甲斐山岳

2022年3月 第13号

公益社団法人

日本山岳会山梨支部

# 甲斐山岳第13号 目次

令和3年度を振り返って

北原 孝浩 1

支部山行

第1回雪山入門ステップアップ講習・入笠山

小宮山千彰 8

第2回雪山入門ステップアップ講習・北横岳

小宮山千彰 9

第40回深田祭と茅ヶ岳

古屋 寿隆 10

西沢溪谷

大澤 純二 10

高峯山

白田 昌美 12

五里山

矢崎 茂男 13

醍醐山 家族登山

磯野 澄也 14

雁坂峠

荏原由美子 15

三方分山・芦川釈迦ヶ岳

池田新二郎 17

武甲山

磯野 澄也 18

本栖烏帽子岳から中之倉峠

小嶋 数文 19

竜爪山

磯野 澄也 20

あとがき

42

公益事業

第7回やまなし登山基礎講座

コロナ禍により中止  
大澤 純二 23

第4回田部重治祭

大澤 純二 24

第62回木暮祭

北原 孝浩 25

山岳レインジャー活動報告

古屋 寿隆 26

全国山岳古道調査報告

古屋 寿隆 27

随筆・書評

ある岳友の死

小宮山 稔 29

『道祖神の口笛』

矢崎 茂男 30

『山を振り返る』

深沢 健三 32

追悼

田村 英也さん

葉袋 興児 34

新会員紹介

平松 清子、高本 英明、井田 智子、小川 基子

事務局報告

大澤 純二 37

会員名簿

41

## 令和3年度を振り返って

山梨支部長 北原 孝浩

### はじめに

新型コロナウイルスが日本で確認され流行が始まって2年余り、変異株が次々と現れて、収まるどころか感染拡大が続いています。この2年間支部企画の山行、行事などの多くを残念ながら変更や縮小、中止せざるを得なくなりました。

ワクチン接種が進み、感染の第5波もようやく落ち着きを見せきて、早晚コロナ禍が終焉したあかつきには温めていた計画の山に出かけようと期待していた方も多いことでしょう。ところが昨年11月に南アフリカで確認された変異ウイルス「オミクロン株」はその感染スピードが著しく速く、またたく間に全世界に感染拡大し、日本においても凄まじい勢いで全国に蔓延して、ほとんどの都道府県に「まんえん防止等重点措置」が適応されるに至りました（第6波）。

山梨県では飲食を伴う場所でのクラスター発生が無いため、まんえん防止等重点措置の適用申請はしなかったものの、1月以降1日の感染者が400人を超える（1月27日439人）など市中感染が急増し、県は1月23日（2月8日内容一部改定）に県民に対して従来の感染防止対策協力要請に加え、あらたに「臨時特別協力要請」（要請期間：当初2月13日まで、その後2月20日まで、さらに2月27日迄延長）を行いました。山梨県山岳連盟宛てには1月24日付で協力要請が発せられました。要請の主たる内容は「5人以上のグループでの会食の自粛要請、外出や他市町村等への移動に関する行動の自粛要請（知事の記者会見では「県境を越えての不要不急の移動自粛」と具体的に要請）、イベント等参加者の陰性確認の要請、人の集まりを減らす取り組みの徹底」であります。

### コロナ禍における支部活動概況

支部総会はコロナ流行の第4波と言われる期間中ではありましたが、山梨県内の感染状況は相対的に低く、まんえん防止等重点措置の適用対象外でもあるので4月17

日(土)に規模を縮小して開催し、総会後の懇親会は昨年度に引き続き中止としました。

4月下旬からは関西地域を中心に変異ウイルス「アルファ株」が流行し始め、4月25日から東京、大阪、兵庫、京都の4都府県に第3回目の「緊急事態宣言」が発せられました。山梨県内の感染は引き続き落ちていた状況でありました。かかる中で支部は年度計画に掲げた諸計画の実行に向けて始動しました。

計画した山行(4月～1月の支部山行、会員山行)11件は、中止した1件を除き、感染防止対策のもと実施しました。

山行は日程にゆとりを持ち安全第一であることは大前提、このコロナ禍においては、一般に言われている「三密を避け、距離をとる」ことは当然のことです。が、行政からの指示があればそれに沿うほか、平成2年5月に山岳4団体が示した「登山活動ガイドライン」を遵守することが山行参加者全員に求められています。

昨今、ワクチン接種による安心感やコロナ禍慣れによるものか、三密を避ける意識希薄と思われる行動が散見されています。加えてワクチン接種効果の低下、薄れに

起因するのでしょうか、ブレイクスルーの心配もあります。11月理事会においてコロナ対策を再確認し徹底することを決めました。その主たる点は次のとおりであります(詳細については12月20日発行の「支部通信」に掲載)。

山行参加者は

- ① ワクチン2回接種を前提とするが、未接種の場合にはPCR検査・簡易キットなどで陰性であることを確認する。
- ② 家を出る前に、体温を測り、発熱や体調不良の場合には参加を止める。
- ③ 山行中、車座になつての食事ならびに飲食物のやり取りを禁止する。

日本山岳会創立120周年記念事業の山岳古道調査も第2年度に入り、2つの調査対象古道(「金峰山古道」と「南アルプス北部古道」)夫々について調査、実査に着手しました。また古道委員会を適宜開き、実査に基づき当初計画の一部見直しなど精力的にとりくみました。

やまなし登山基礎講座は支部重点事業の一つであり、

第6回までは山梨学院の全面的な支援のもと実施してきましたが、山梨学院の事情で今後継続実施ができなくなりました。支部独自で継続実施するには従来山梨学院生涯学習センター分担の諸作業（講座案内チラシの印刷や受講が見込める生涯学習センターが所有する名簿の方々へのチラシ郵送など）の受講生募集事務、講座当日配布資料の印刷帳合など）一切合切を、事務所や事務員を持たない支部が行うことが前提となります。継続実施の可否について理事会で審議した結果、実施することが決まりました。

かくして第7回やまなし登山基礎講座は、講座日程、担当講師などを決め、開講会場の確保、チラシの作成、広報活動（チラシ配布、Web掲載）を行い、8月1日から受講生募集を開始しました。開講のための最低受講人員数もクリアーできて準備万端、9月7日の開講を待つ状況になりました。

ところが7月に入り東京都と周辺で新型コロナウイルス感染症の新規陽性者が急増して、第4回目の「緊急事態宣言」が東京都（7月12日）、埼玉、千葉、神奈川の都周辺3県（7月30日）に発せられました（第5波）。そして徐々に山梨県内の感染者も増えて、遂に8月20日から山

梨県に「まんえん防止等重点措置」が適用される事態に至りました。この予期せぬ状況変化に遭って、支部あげて準備してきました第7回目の講座は断腸の思いで中止することを決定しました。日程を先延ばしにして何とか開催できやしないか？との考えも頭をよぎりましたが、会場確保や受講申込みいただいた方々の動向が不透明、そして何よりも先々の感染状況が見通せず、やむなく中止することにしたものであります。

山梨県内の感染状況も次第に落ち着き9月12日に「まんえん防止等重点措置」の適用解除となりました。

秋季から初冬にかけては全国的にコロナ感染状況が落ち着いた状況で推移して、計画した支部山行、会員山行を6回実施しました。また、数年来懸案であった家族登山は支部として初めて実施することができました（10月24日、昨年度はコロナ禍で中止）。

山梨県山岳レインジャー委託事業はコロナ感染防止対策をして、6月（北岳・探索）7月（甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、いずれも探索）に実施しました。

第40回深田祭（4月18日）、第4回田部祭（5月16日）

## 山の日制定記念事業 2021

# 第7回やまなし登山基礎講座

山梨県・【令和3年度やまなしで過ごす「山の日」】関連イベント

回	日程	内容	講師
①	9/7 (火)	A オリエンテーション B 日本山岳会について C 山の天気と観天望気	古屋 寿隆 (日本山岳会山梨支部事務局長) 北原 孝浩 (日本山岳会山梨支部支部長) 小宮山 千彰 (日本山岳会山梨支部山行委員長)
②	9/14 (火)	A 安全安心登山の基本 B 装備、服装、食糧	大澤 純二 (日本山岳会山梨支部理事長) 北原 孝浩 (日本山岳会山梨支部支部長)
③	9/21 (火)	A 地図読み B 山の自然保護	荏原 由美子 (日本山岳会山梨支部会員) 磯野 澄也 (日本山岳会山梨支部山行委員長)
④	9/25 (土)	実践登山 1(茅ヶ岳) (地図読み・ロープワーク とセルフレスキュー)	古屋 寿隆 (日本山岳会山梨支部事務局長)
⑤	9/28 (火)	A 山岳遭難 B 山の救急医療	細田 茂樹 (山梨県警察本部生活安全部 地域課・山岳警備安全対策隊長) 角田 元 (日本山岳会山梨支部会員・医師)
⑥	10/2 (土)	実践登山 2(高川山) (総合登山)	小宮山 千彰 (日本山岳会山梨支部山行委員長)
⑦	10/5 (火)	A 山の文学 B 山梨の登山史 C 山岳写真 修了式	矢崎 茂男 (日本山岳会山梨支部広報担当) 深沢 健三 (日本山岳会山梨支部顧問) 北原 孝浩 (日本山岳会山梨支部支部長)

※ 諸事情により、講師や内容が変更になる場合があります。

会 場：ひゅあ総合 (甲府市朝風1-2-2 電話 055-235-4171) 受付 18:15～

9/7 開講時間 18:30～20:45 3階音楽室  
9/14 " " " 2階大研修室  
9/21 " " " "  
9/28 " " " "  
10/5 " " " "

交 通：バス、または自家用車でお越しください

対 象：登山経験の浅い初級者、登山の基礎を学び直したい中級者で、全講座に参加できる方  
定 員：25名 (10名に満たない場合は中止します。)

受講料：12,000円 (テキスト代・資料代・山岳保険代など)

★ 地図読みの地図、コンパス等お持ちでない方には別途注文を受け付けます。

★ 実践登山の交通費・行動食は、各自ご負担願います。

★ 第5回 9/28 は一般公開します。

★ コロナ感染防止のため、マスク着用、消毒などをお願いします。



お申し込み方法：葉書、ファックス、またはメールで、

氏名・男女の別・生年月日・住所・電話番号を  
記入して下記にお申し込みください。

お申し込み先：日本山岳会山梨支部

事務局 古屋寿隆

〒400-0118 甲斐市竜王 3022-1

電話 090-4339-3059

ファックス番号:055-276-8004

メールアドレス:yman@jse.or.jp

お申し込み期間：8月1日(日)～8月25日(水)

ただし、定員になり次第締め切ります。

主催：公益社団法人 日本山岳会山梨支部



山梨県立男女共同参画推進センター(ひゅあ総合)



第62回木暮祭（10月17日）ともに開催しました。いずれも記念の支部山行を実施しました。木暮祭には北杜市長上村英司氏、本部から坂井広志副会長のご参加をいただきました。なお木暮祭後恒例の「ほうとうを楽しむ会」はコロナ感染防止のため昨年度に引き続き中止になりました。

年が変わって1月、感染力が極めて速いオミクロン株が猛威を振るい始めました。参加者がほぼ確定している雪山入門ステップアップ講習（2月度2回、いずれも長野県北八ヶ岳）は、山梨県からの「臨時特別協力要請」に加えて、講習実施山域が「まんえん防止等重点措置」適用の長野県であること、医療体制のひっ迫が懸念されている昨今、大人数での雪山登山講習は避けるべきであろうとの判断で中止としました。

## 在籍会員状況

支部在籍会員（会員、準会員）は過去数年70名内外で推移しています。

今年度末は72名（会員63名、準会員9名）の見込みで

あります。今年度中の入会者は6名で会員4名（内、1名は準会員からの移行者）、準会員2名であります。一方退会者は8名で会員5名（内、死亡1名、高齢を理由2名、退会2名）、準会員3名（内1名は会員へ移行、退会2名）という状況であります。

会員の高齢化が進み、他界される方や高齢で会員を続けることが困難になったという理由で退会される方が毎年数名ある状況にあります。また、やまなし登山基礎講座の開催中止により受講生からの新規加入者が無かったことでもあります（昨年度、受講生からの入会者は会員2名、準会員1名）。

新規入会者増を図り、早期退会者を防ぐためには、より魅力ある支部活動を不断に続けることに努めることが極めて重要であると考えています。また、準会員期間満了到来予定者については「会員移行」への勧奨を紹介者（誘致者）が中心になって積極的に行うことが大切であると考えています。

## コロナ禍を乗り越えて

昨今山梨県内の感染者数も極めて憂慮する状況にあり

年度始		入会(a)	退会(b)	(a)-(b)	年度末
会 員	63	*4	***4	0	63
準会員	8	2	**1	+1	9
計	71	6	5	+1	72

\*準会員から会員への移行：1 入会：3

\*\*退会：2 会員移行：1

\*\*\*死亡：1 高齢を理由に退会：2 支部退会（他支部へ）：1

ます。日本で現在猛威を振るっているオミクロン株（Ba.1）の感染者はやや減少傾向にはあると言われていますが、このオミクロン株の変異亜種株「Ba.2」、ステルスオミクロン」が市中で（山梨県内でも）2月15日に確認）徐々に感染し始めていて、海外では既にこれに置き換わってきていると国立感染症研究所の方が説明する報道を聞きました。これは現在国内流行のオミクロン株よりさらに感染力が2倍程度強く、感染すると重症化しやすいことがわかってきているとあります。

次々と変異を繰り返しているコロナウイルスの終焉は全く見通せぬ状況にあります。次なる令和4年度においても不透明かつ複雑な情勢の中で支部年度計画に盛った諸事業を臨機応変に対応して行くことが必要になるであります。

コロナ感染症の存在が今後も続くことを前提にして、支部の業務、事業を円滑かつ効率的に推進して行くためには、従来とは異なったアプローチもときには必要ではないだろうかと考えています。人との密集、接触を極力減少・抑制したやり方、省力化や効率化を一層進める取り組み、さらに、やまなし登山基礎講座をオンライン化する研究、理事会等支部の諸会議にオンライン方式を適

宜導入実施する等々について検討する時期に来ているの  
ではないかと考えています。

(2月25日記)

## 支 部 山 行

### 第1回 雪山ステップアップ講習・ 入笠山

小宮山千彰

山行日…令和3年1月30日(土)  
地 図…2万5千図・信濃富士見

行 程…ロープウェイ山頂駅―雪原―山頂―山頂駅  
参加者…小宮山千彰、荏原由美子、相川修、小嶋数文、  
鶴田輝代、鶴田陽子

7時30分、甲斐市敷島総合文化会館駐車場に集合し、  
2台に分乗して富士見パノラマスキー場に向かった。ス  
キー場駐車場で身支度を整えロープウェイで山頂駅ま  
で。さすがに上は寒い。そこから花期にはスズランが咲  
く雪原まで、程よく締まった雪道を歩く。

雪原を横切り適度な斜面で雪山訓練(雪訓)開始。ア  
イゼンの付け方、歩き方、深雪でのラッセルの仕方など  
の説明の後、一人ずつ練習してみる。ピッケルの使い方  
を数種類練習し、滑落停止の基本姿勢も体験した。2時

間ほど訓練を行ったのち、山頂を目指して実践歩行。部  
分的に雪の深い箇所もあり受講生には良い経験となる。  
山頂は快晴。360度のパノラマで眼前には真っ白な  
八ヶ岳が広がっている。しかしいつもながらこの季節の  
入笠山山頂は風が強い。山頂での楽しみも早々に切り上  
げてマナスル山荘まで下山する。山荘前の広場には犬を  
連れた登山者が多い、手頃な犬の雪遊びフィールドなの  
だろう。雪訓を行った雪原近くの道で遅い昼食をとって  
ロープウェイ山頂駅に戻った。

短い時間であったが雪とたわむれる楽しさを味わって  
もらえたと思う。2年ぶりの雪山講習会。満足のいく1  
日であった。

### 第2回 雪山ステップアップ講習・ 北横岳

小宮山千彰

山行日…令和3年2月20日(土)

地 図…2万5千図・蓼科  
行 程…ロープウェイ山頂駅―北横岳―縞枯山荘付近



## ―山頂駅

参加者：小宮山千彰、荏原由美子、相川修、小嶋数文、  
河野芳尚、石澤貴子、手崎喜美子、鶴田陽子  
敷島総合文化会館駐車場に集合して北八ヶ岳ロープ  
ウェイ駐車場に向かったのは7時40分。2回目となる今  
回の講習は、登る山も訓練内容も難易度を上げた。

### 北横岳山頂

ロープウェイ  
山頂駅でアイゼ  
ンを付け身支度  
を整えて出発。  
強風の坪庭を横  
切り登山道に取  
りつく。この辺  
りではストック  
で十分である。  
順調に北横岳  
ヒュッテまで登  
り、ピッケルに  
取り換える。急  
登を過ぎ稜線に  
出ると、真っ直

ぐ歩けない程の強風。何とか北横岳の北峰にたどり着き  
蓼科山や南八ヶ岳の雄姿に見入った。女性たちは強風下  
でもポーズをとって元気に写真を撮り合っている。山頂  
のモンスタ―はまだ着雪が少ない。

強風の山頂を後にして、北横岳ヒュッテまで戻り一  
息。樹林帯の往路を下り山頂駅を右に見送って、縞枯山  
荘近くの斜面に陣取った。ここで昼食をとり一休みして  
から雪訓開始。今回はたっぷりの深雪である。ラッセル  
訓練、ピッケルの使い方、滑落停止訓練と間断なく実  
施。特に滑落停止では実際に前方に1回転してから停止  
を行ったので皆雪まみれである。それを何回も繰り返  
した後、白樺の木を支点にしてロープとカラビナを使った  
確保訓練を行う。肩確保、ムンター確保、エイトノット、  
クロープピッチなど各自体験した。

じっくり雪と格闘してロープウェイで山を下った。レ  
ストランで美味しいコーヒーやケーキに舌鼓を打ちなが  
ら、ひとしきり今日の反省などに花が咲いた。今回は少  
しハードな講習を行ったが、技術を貪欲に習得しよう  
という雰囲気があり、かつ笑いもあり、実に有意義な講習  
だった。

## 第40回深田祭と茅ヶ岳

古屋 寿隆

山行日…令和3年4月18日(日)

地 図…2万5千図・茅ヶ岳

行 程…深田記念公園―女岩―山頂―尾根道―深田記

念公園

参加者…北原孝浩、小宮山稔、渡辺峯雄、渡辺秀子、

小嶋数文、萩野有基子、古屋寿隆、

(碑前祭のみ参加…末木佐登子)

4月18日、『日本百名山』の著者で日本山岳会の常務理事も務めた深田久弥を偲ぶ深田祭が、本年40回を迎えた。氏が昭和46年3月に茅ヶ岳で急逝されてから50年目の特別な年でもある。

前日には韮崎市文化ホールで記念セレモニーのあと、ご子息深田林太郎氏による特別講演「父・深田久弥」と記念シンポジウム「南アルプスの魅力とWithコロナ時代の登山の楽しみ方」が盛大に開催された。

当日の碑前祭は、例年と違って朝8時30分から深田記念公園で開かれ、地元関係者をはじめ、深田の生地、石川県大聖寺町からも大勢の参加者があった。コロナ禍で

もあり式典は簡素化され、代表者のあいさつの後、当支部ほかの献花と献酒だけが行われた。

その後私たちは、地元の山岳会員が案内する記念トレッキングと相前後して、9時に茅ヶ岳登山に向かった。林道を1時間ほど歩き女岩で休憩後、急登の斜面を登り稜線に出る。大勢の登山者が続く。5分ほどで深田の終焉地に小さな碑が建てられている。頂上まで15分ほどのところである。山頂は多くの登山者で賑わっている。青空のもと、甲斐駒が岳、鳳凰三山、北岳が西にそびえている。昼食後、南の尾根を下る。途中登山道から外れ、希少種オキナクサの小群生地を訪れた。防火帯道に入るとミツバツツジがいつものように陽光に輝いていた。14時、無事深田記念公園に下山した。

## 西沢溪谷

大澤 純二

山行日…令和3年5月16日(日)

地 図…2万5千図・金峰山

行 程…道の駅「みとみ」―西沢山荘・田部重治文学

碑―西沢溪谷・七ツ釜五段の滝―旧森林軌道



雨に洗われたアズマシャクナゲ

(元トロッコ道)―ネトリ大橋―道の駅「みとみ」  
 参加者…北原孝浩、大澤純二、渡辺峯雄、古屋寿隆、相川修、遠山若枝、萩野有基子、末木佐登子、小嶋数文、池田新二郎、大澤さな枝、渡辺寿子、磯野澄也、堀口丈夫  
 (碑前祭のみ参加…内藤順造、鈴木勝彦)

小雨の中、道の駅駐車場を出発し、西沢山荘前の田部重治文学碑に向かった。ほどなく第4回田部祭式典が始まり、山梨市観光協会雨宮巧氏から田部重治の功績の紹介があった。北原支部長の碑前への献花のあと記

念写真を撮った。

濡れた渓谷道はやや危険と判断し、支部山行としてはここで解散して、希望者が渓谷周回ハイキングを行った。残りはネトリ大橋までもどり、トロッコ道をさかのぼってシャクナゲなどの花の鑑賞を楽しんだ。

天候の回復を期待しつつ渓谷周回組は碑前を出発し、渓谷道まで下りる。足元に注意を払いながら快調に進む。二俣吊り橋では雲間から鶏冠山頂上付近が幻想的な姿を覗かせていた。透き通った清流、長い歴史の中で浸食された巨大な花崗岩、色を濃くした木々の緑、西沢の渓谷美はいつも感動をもたらす。七ツ釜五段の滝を眺める頃には、狭い天空も青い空に変わった。雨具を脱ぎ、最後の急登に汗をかいた。シャクナゲの群落を楽しみ、往路最終点に到着、気持ちの良い緑の下で、ゆっくり昼食をとった。帰路、すっかり天気も回復し、シャクナゲ、ミツバツツジの咲く中、トロッコ道を快適に歩き下山した。

花の鑑賞グループは、アズマシャクナゲ、ハクサンシャクナゲ、ミツバツツジ、ヒカゲツツジなど最盛期を過ぎたとはいえ多くの花々を楽しんだ。雨が上がり空がだんだん明るくなってきたのは、少々心残りであった。

# 高峯山

白田 昌美

山行日…令和3年7月11日(日)

地 図…2万5千図・車坂峠

行 程…高峰高原ビジターセンター(車坂峠)―粒ヶ平

―高峯山―高峰温泉―池の平湿原

参加者…池田新二郎、大澤純二、大澤さな枝、渡辺峯雄、渡辺秀子、萩野有基子、末木佐登子、遠

山若枝、磯野澄也、白田昌美

花の百名山・高峯山は、浅間山系1000種高山植物分布の中にある。7月中旬の日曜日、小諸市の車坂峠駐車場から歩き始めた。高峯神社の鳥居の下から初夏の花・紫のゲンバイヅル(中部限定)、タカネアオヤギソウやクガイソウの重めの蕾、可愛いピンクのシヤジクソウ(車軸草)の名前通りの形を教わり、粒ヶ平でひと休み。ニッコウキスゲは開花直前。カラマツソウ、ウスユキソウ、ツマトリソウ、ヤマオダマキ、日本スズランの葉、満開のシヤクナゲ林を抜けて、高峯山山頂へ到着。神社に拝礼後、青空の北アルプスと360度展望を堪能しながら昼食をいただいた。岩場にはヒメシヤジンの葉

もあつた。

高峰温泉へのシヤクナゲ樹林は、サラサドウダンツツジの赤花や、ハリブキの花、駐車場にはクリンソウ(九輪草)も咲いていた。男性方に運転をお願いして、池の平駐車場へ移動。車に乗るや大粒の雨が降り驚いた。

雨が降り止む間に、湿原木道を三方ヶ峰へ向かう。ゲンバイヅル群生を夢中で撮影。テガタチドリ、ハクサンチドリなどもカメラに収めた。三方ヶ峰のコマクサ群落では、白花ピンクや終わりかけの深紅などいろいろなか



## 山頂での憩い

マクサに出会えた。降りだした雨の中、鏡池を眺めつつ、また、のんびりと湿原木道に戻った。紹介出来ない程の数々の花の名前、開花直前の葉や蕾についての遠山さんの詳しい解説に一同頷き、納得した。ユニークなマルバブキダケの蕾の形、花の名前に納得のシヤジクソウ。夢中で写真を



撮った。

笑い声が絶えず、賑やかでのんびりした花いっぱい  
初夏の高峯山。この楽しい山行を企画してくださった池  
田さんに、感謝でいっぱいの日だった。

## 五里山

矢崎 茂男

山行日…令和3年10月17日(日)

地 図…2万5千図・瑞牆山

行 程…金山山荘キャンプ場―登山口―思索峠―西峰

―薙山―登山口―キャンプ場

参加者…古屋寿隆、磯野澄也、矢崎茂男、滑志田隆、

滑志田ひとみ、大原光彦、小川基子、後藤美佳

10月第3日曜日の木暮祭に合わせて、数年来実施して  
いる五里山登山。すっかり定番になったが、古屋リー  
ダーの計らいで毎回少しずつ味付けが加えられてい  
る。今回はこの山を構成する五つのピークの内、南峰  
(1722m)登頂を目指すことになった。

集合場所の金山山荘キャンプ場は、朝から冷雨に打た  
れていた。例年に比べて紅葉が遅く、シラカバやカエデ

は緑の衣を羽織ったまま。樹間に見えるはずの金峰山は  
霧の向こうである。

8時15分に出発。金山沢を渡って林道を進み廃棄林道  
入口から踏み跡をたどる。下見の際、リーダーが巻いた  
ピンクのテープが森の奥に続いている。堰堤を二つ越え  
た先の沢筋が尾根への登路である。この上の鞍部を私達  
は「思索峠」と呼んでいるが、ならばこの沢は「思索  
沢」、この地点は「思索沢出合」と呼ぶのがふさわしい  
と、どなたかが提案。これらの名称が徐々に定着してい  
くのが楽しみである。

薄い踏み跡をゆつくり登る。リーダーが持参の道具で  
足場を作っていく。登り上げた峠は大小の露岩がベンチ  
のように並ぶ心地よい休憩地である。あいにくの雨天で  
はあるが、雨に洗われたミズナラの森を眺めていると、  
自然と深い思索に誘われる。ここから明瞭な尾根道にな  
り、1730メートルの西峰に立ったのは10時過ぎ。山  
頂は狭いため二手に分かれて記念写真を撮った。雨は上  
がる気配がなく、南峰へのルートは危険箇所もあるた  
め、ここから下山とした。復路には昨年トレスした北  
西尾根を下った。薙山手前の痩せ尾根で参加者1名が足  
を滑らせるアクシデントが起きた。幸い大きな怪我には

至らなかったが、通い慣れた山であっても油断は大敵。私たちは額の脂汗を拭いながら大いに気を引き締めた。キャンプ場に1時過ぎに帰着。雨が上がりシラカバ林の上に金峰山が聳えていた。いつもは柔和な金峰山が、やや険しい表情で見下ろしているように思われた。

## 醍醐山 家族登山

磯野 澄也

山行日…令和3年10月24日(日)

地 図…2万5千図・切石

行 程…甲斐常葉駅―鳩打峠―頂上―展望台―頂上―

大子―上之平―下部温泉駅

参加者…鶴田浩、鶴田陽子、磯野賢司、磯野麻衣、磯

野心希、五月女雅樹、五月女美咲、五月女日

南、五月女ふみ、斉藤大資、斉藤琉禾、斉藤

二湖、北原孝浩、磯野澄也、古屋寿隆、渡辺

峯雄、萩野有基子、遠山若枝、末木佐登子、

平松清子、相川修、渡辺秀子、市川俊幸、赤

池茂仁

山梨県の「2021年度やまなしで過ごす山の日」イ

ベントの一環として、山梨支部主催の醍醐山家族登山を10月24日(日)に開催した。8月に予定された県主催の大菩薩峠トレッキングは9月に日時を変更したものの、新型コロナウイルスの影響により中止された。山梨支部も慎重に検討を重ねた上で、十分な感染防止策を前提に実行した。

秋の爽やかな晴天下、4組12名に山梨支部員等12名の



山頂で記念撮影

サポート含め計24名にて実施した。醍醐山はかつて、地方のどこにでもある荒放題の山であった。9年前に東京スカイツリーが開業。スカイツリーの高さと同じ標高634m(ムサシ)であることにより、この忘れ去られた山が地元関係者及び山仲間の協力を得て復権した。日

本山岳会会員の協力もいただき6 kmの登山道が整備された。ブログなど通じ、今や全国的に知られる山になった。

コースは、JR身延線甲斐常葉駅から鳩打峠を経て頂上、下山路は大子集落・上之平を経て下部温泉駅までの縦走である。甲斐常葉駅で開会式・準備体操後、2班に分かれ登る。標高差400 m程度の山は、年齢差関係なく家族登山にもってこいの山である。随所の展望台から景観を楽しみ、木々に付けられた名札に樹木の名前を学びながら里山の登山道を行く。コロナ禍による2年間の制約の日々が平常に戻りつつある。家族の話が弾み満面の笑みがこぼれる。頂上までは2.7 km。ゆっくりペース、2時間半で頂上に着く。

ここから展望台へ往復、篠井山・十枚山・七面山等静岡県境までの視界が広がる。支部員によるカップ麺サービスがあり頂上にて昼食。この後、参加家族ごと感想を述べていただき懇親を深める。醍醐山テーマソング「希望の醍醐山」を高らかに斉唱し下山へ向かう。

下山路はモミジ回廊をたどる。未だ青々とした広葉樹の森で森林浴を楽しむ。30分下った中腹に消滅した大子集落がある。ここにはかつての日本の風景が残る。更に30分で上之平、15分で終点 湯之奥金山博物館。閉会式

にて、家族・スタッフ共に、「良かった、楽しかった」の感嘆の声が上がった。満足感が全身を覆う山の一日の終わりだった。

## 雁坂峠

荏原由美子

山行日…令和3年10月31日(日)

地 図…2万5千図・雁坂峠

行 程…雁坂トンネル駐車場―沓切沢橋―井戸沢―雁

坂峠―井戸沢―沓切沢橋―駐車場

参加者…北原孝浩、小宮山千彰、上田謙治、池田新二

郎、小嶋数文、荏原由美子

前日までの秋晴れとはうって変わっての曇天。雨予報も出ている中、悩んだが決行することとした。

トンネル手前駐車場を発ってしばらく林道を歩き、沓切沢橋から登山道に入る。紅葉は見頃を迎え、写真を撮ったりしながら久渡沢沿いを快調なペースで登っていく。途中雨が落ちてきたのでカッパを着るも、高度が上がるにつれ次第に空が明るくなってきた。

笹原の斜面が広がる雁坂峠に到着。展望は雲の中で



峠に煙る霧

ある。そこでK氏が何やら呪文らしきものを唱え、とさつと雲が切れ、雲の合間から周りの山々や富士山も見えだす。思わぬ絶景に「わーすごい！」と口々に叫びながら夢中でシャッターを切る。(呪文の効果かは定かではない)

山頂には秩父往還の歴史と近隣の植生の立看板。古びた石碑には1977年安全登山の記。1998年に雁坂トンネルが開通するまで「開かずの国道」と言われ、峠を越えるこのコースが国道140号に指定されていたという。針ノ木峠、三伏峠、とともに日本三大峠の一つであり、甲斐国の古道「甲斐九筋」の一つでもある。また『日本書紀景行記』に「日本武尊が通った」と記載

されているなど、由緒ある峠である。

行人達も日本武尊一行も、きっとここで富士山を眺めながら食事をとったに違いない。私たちも豚汁と焼き肉という豪華版ランチを食べながら物思いにふける。ガスも上がってきたので雁坂嶺へのピストンは中止にして、ここでのんびりと至福の時間を過ごす。

満腹でやや重いお腹を抱えながら山頂を後にする。中腹にさしかかった頃から陽が射しはじめ、夕日に染まっっていく紅葉と渓谷美を堪能しながら高度を下げていく。木々の合間をぬいながら、いにしへの秩父往還の行人達に思いをはせ、ふとタイムスリップしたような錯覚に陥るのがこの峠の魅力だと思う。唯一難所の4カ所の沢の徒渉も、水量が少なく難なく渡ることができた。

メンバーとの会話が弾み、山は人で決まるよと以前言われたことを実感した楽しい山行となった。メンバー及び小宮山SLに感謝したい。

## 三方分山・芦川釈迦ヶ岳

池田新二郎

山行日…令和3年11月6日(土)

地 図…2万5千図・市川大門・精進

行 程…登山口―ヌケド峠―トリノ山―三方分山―ト

リノ山―ヌケド峠―芦川釈迦ヶ岳―釈迦屋敷

跡―芦川釈迦ヶ岳―折八林道登山道―登山口

参加者…渡辺峯雄、渡辺秀子、大澤純二、大澤さな枝、

池田新二郎

お釈迦様にちなんで「釈迦ヶ岳」と命名された山は、全国にいくつもあるとのことだが、今回向かうのは、甲斐百山の芦川釈迦ヶ岳だ。山梨百名山の釈迦ヶ岳がすぐ近くにあるが、JAC山梨支部発行の『甲斐百山』によると、そちらは本来嵯峨ヶ岳であるという。なぜこうなったか定かではないが、とにかく、こちらが本命釈迦ヶ岳という感じはする。気温も急激に下がり、紅葉の色づきもややあせたかと思われる11月初旬に一行5名がこの静かな山に入った。

登山口からは、黄金色に染まった山並みが見える。落ち葉でふかふかの登山道を登ると、すぐにヌケド峠に到



冬枯れの芦川釈迦ヶ岳

三方分山に着いて、しばしの休憩をとる。ここからは秀麗な富士山の姿が見られるはずだが、雲に隠れてよく見えない。だが雲は動き続け、気が付くと富士山、大室山、精進湖が縦に並んで見えたのは幸運だった。道を引き返して、芦川釈迦ヶ岳へ。何の変哲もない山頂を経て、釈迦屋敷へ向かう。ここには、平安時代京都から運ばれたお釈迦様の像が祭られていた

達。まずは、山梨百名山の三方分山に向かう。なだらかな尾根道を行く。ふと下を見ると、季節外れのトリカブトの花が、二輪咲いていた。登山道沿いにいくつものトリカブトの群落があり、ほとんどは咲き終わって、種を茎の先に着けている。紅葉は黄色系のもが多いが、とくに紅く染まった楓があり、景色を華やかにしていた。

という。現在、釈迦像は麓の永泰寺に安置されている。山頂に戻って昼食。記念撮影後、ゆっくりと下山した。途中永泰寺にも寄り、歴史に思いをはせつつ秋の山行を終了した。

## 武甲山

磯野 澄也

山行日…令和3年11月3日(水・祭日)

地図…2万5千図・秩父

行程…一の鳥居神社―不動滝―大杉の広場―武甲山

―シラジクボ―一の鳥居神社

参加者…磯野澄也、池田新二郎、中村光吉、平松清子  
私にとって、武甲山は特別な山だ。50年ほど前の若き頃、東京の建設会社に就職し、日本の高度成長に欠かせないセメントの原材料である石灰岩の山として、興味を持ち登った。武甲山の石灰岩は、日本屈指の良質な大鉱床であり、可採鉱量は約4億トンと推定される。大正時代から採掘され、昭和40年代からの高度経済成長期に加速され、当時の標高は1336mあったが、現在の最高点は1304m、実にこの間で32m削られ低くなった。



削られ続ける武甲山

その分、日本の国土づくりに貢献した、言わば昭和の建設遺産の山である。  
県をまたぐ山行には応募が少なく4名となった。秩父市に入るとその削りとられたピラミッド型の異様な景観に圧倒される。また白煙上がる工場内通路と化したアプローチ道路にも、その操業中のリアルな凄さの現実に出合う。甲府より2時間半ほどかかり登山口である一の鳥居神社に着く。

一の鳥居神社の標高は600m、頂上まで700mの登りだ。丁目の標柱など良く整備された快適な登山道を、紅葉を楽しみながらのんびりと歩く。1時間20分で、標高1000mの大杉の広場に着く。文字通りスギの大木が立つ休憩地である。ここから根っ

子の張り出した登山道を5分くらい登って頂上に到着。

武甲山の頂上から北側は、スッパリ切れ落ち石炭岩掘削の様子が確認できる。北と西側の視界が開け、両神山・榛名山・赤城山、遠く谷川連峰、眼下には秩父市内の景観が広がり、大きな石灰岩精製工場が多数見られる。初登山時と変わり果てた山容に改めて複雑な心境になる。一寸下った御嶽神社前で昼食をとる。

下山路は、南側尾根をシラジクボを経由して一の鳥居神社へ戻るコースをとる。尾根沿いの紅葉が目映い。途中、史跡持山寺跡に立ち寄る。供養塔が現存し、江戸時代からの伝説を伝えている。頂上より1時間半くらいで下山する。

下山後、武甲山博物館の看板が偶然目に止まり立ち寄る。武甲山の見える丘に建ち、この山の歴史・文化に思いを馳せた。参加者全員が満足し、話の弾む帰路になった。

## 本栖烏帽子岳から中之倉峠

小嶋 数文

山行日…令和3年12月12日(日)

地 図…2万5千図・精進

行 程…本栖湖県営駐車場―城山登山口―城山―本栖

烏帽子岳―パノラマ台―中之倉峠―駐車場

参加者…渡辺峯雄、北原孝浩、大澤純二、相川修、上

田謙治、池田新二郎、大澤さな枝、萩野有基

子、渡辺秀子、平松清子、白田まさみ、高橋

みゆき、杉山健一、小嶋数文

水面から霧が立ち込めて、朝日が当たる幻想的な光景の本栖湖を見ながら、集合場所である県営駐車場へ。8時15分、A班、B班に分かれて出発。国道から分かれ、青木ヶ原樹海の中、甲府から静岡吉原を結ぶ中道往還の旧道をたどる。

樹海特有の雰囲気を感じながら、この街道を通った信玄、信長、家康のことなど考えているうちに、東海自然歩道との出合いが本栖城跡入り口。ここから、所々に堀切のある尾根を登っていくこと20分で本栖城跡主郭に到着。石積でできた「のろし台」横から、所々トラロープ



本栖烏帽子岳山頂

の張つてある痩せ尾根を慎重に進み、つづら折りの登りを一登りすると本栖烏帽子岳頂上に到着。展望がよく、目の前に青木ヶ原樹海が広がり、大室山、その左上に長尾山などの火口群、そして富士の雄姿。更に、歩くこと30分でパノラマ台に到着。精進湖畔から小一時間で登れる利便性からか人も多い。その名の通り富士を正面に、左側に足和田山、西湖その後ろに御坂山塊、更にその向こうに大菩薩、奥秩父まで遠望でき、右側には天子山塊、南アルプスが見える。

ここから少し北に行つた明るい林の中でゆつくりと昼食。ちよつとだけ北に進み、立派な標識のある本日の最高地点1328mを左折する。よく整備された緩やかな尾根道を下っていく。前方右手には、すっかり葉

の落ちた枝の間から雪をまとつた南アルプスが長く横たわるのがちらちら見える。

1146m峰を南に巻いて更に下るとやがて、1000円札で有名な中之倉峠に着く。ここには新しい階段状の素晴らしい展望デッキがあり、皆、一斉に歓声を上げ、カメラのシャッターを切り始める。デッキ上には、写真家岡田紅陽が中ノ倉峠から撮影した『湖畔の春』の解説標識も配されていた。絶景を満喫して、キャンプと写真撮影の観光客でこつた返す本栖湖畔に下る。天候にもめぐまれ、心地よい日だまり展望山行になった。

## 竜爪山

磯野 澄也

山行日…令和4年1月10日(月・祭日)

地図…2万5千図・清水

行程…平山神社―穂積神社―薬師岳―文珠岳―道白山―平山神社

参加者…磯野澄也、北原孝浩、上田謙治、白田昌美、平松清子、鶴田陽子、鶴田輝世



念願の中部横断自動車道「下部温泉・早川IC」「南部IC」間が、昨年8月に開通し全通した。よって下部温泉・早川IC～清水ICまで約40分とグッと近くなり、静岡県とのあらゆる面での交流の活性化が期待される。南山梨地域から見ると、静岡・神奈川県を合わせ東京と同規模になる。そういう意味合いを含め、毎年静岡の山を選定している。

竜爪山は、静岡市の1000mクラスの、ポピュラーな山である。文殊岳・薬師岳からなり、約1300年前弘法大師が真言密教を布教の折、当山を訪れたと言い伝えられ、古くから山岳信仰の場として中腹に穂積神社が祀られている。

登山口は平山神社で当初文殊岳ピストンの予定であったが、メンバーの力量を鑑み道白山経由の一周コースとして計画した。この下山コースは急坂であり整備されていないためか、山マップには載っているものの登山口看板には無い。標高356mの平山神社から沢を渡り右岸の尾根沿いの旧道ルートに取付く。手前の道白山への登山道との標識が不明瞭で間違え易い。登山道沿いには丁目の石標柱があり、ある程度の目安になる。1時間20分で745mの穂積神社に着く。立派な神社であるが、冬



左文殊岳、右薬師岳

季は管理者が駐在せず閑散としている。

神社裏の夫婦杉の大木を横に見て、南東の尾根を登る。急坂に差し掛かると仮設階段が延々と続き、何とも奇妙な登山道の様相だ。振り返ると富士山が浮かぶ。尾根と北斜面には積雪があり雪景色になる。1時間で分岐を経て1051mの薬師岳に着くが、視界はきかない。そこから15分程で1041mの文殊岳に着く。ここは大変展望が良く、聖岳等の南アルプス南部、駿河湾、伊豆

半島の景観を楽しむことができる。ここで昼食。山頂には30名くらいが楽しんでいる。

文殊岳より道白山下山ルートへの看板は無い。ここは昨年、もトレースしたが、登山道は明確で急坂には補助ロープが張られている。道白山手前の鉄塔がある

ピークからの双耳峰の景観が良い。道白山から杉林を一  
拳に下り、頂上から1時間50分で平山神社に着く。

下山後の静岡県の楽しみである海の幸の舌鼓は、コロ  
ナの関係上買物のみとしたが、参加者それぞれが山梨と  
違う雰囲気を楽しみ満足したようだ。

## 公益事業

### 第7回やまなし登山基礎講座

#### コロナ禍により中止

大澤 純二

平成26年に国民の祝日「山の日」が制定された。山梨支部では、山の日制定記念事業として翌27年に「やまなし登山基礎講座」を開講し、毎年継続してきた。今年度も9月7日から10月5日まで、第7回となる講座開催の準備を進めてきたが、8月26日、臨時理事会を開催し、新型コロナウイルス禍対応を理由に中止を決めた。この間の経緯を以下に記す。

令和2年春、新型コロナウイルス感染症が急拡大し、4月7日、政府よりいわゆる「緊急事態宣言」が7都府県に出され、登山など様々な活動自粛が要請された。16日には山梨県にも拡大適用されることになった。緊急事態は5月25日には全面解除されたが、日本山岳会を含む山岳4団体が、感染拡大防止のための山岳スポーツ活動のガイドラインを提示した。

新型コロナウイルスが小康状態にある中、第6回やまなし登山基礎講座を開講した。9月8日から11月17日にかけて全11回の講座を敢行した。受講生は15名。三密を避けるよう山梨学院大学のやや広い教室で実施し無事終了した。

第6回の講座の終了と同時に、第7回の講座の準備を始めた。これまでは、山梨学院生涯学習センターの全面的なバックアップのもとに実施してきたが、今年は会場の確保、チラシ作成、募集事務、講座運営など、すべての実務と経費を山梨支部単独で負担して開催することになった。

このため日程を圧縮して9月7日から10月5日まで、内容は、机上講義5回（火曜日夜、ぴゅあ総合）、実践登山2回（土曜日）の全7回、募集定員25名とした。支部員の多くの皆さんに協力をいただきながら、受講生募集活動を行っていたさなか、新型コロナウイルス感染症「まん延防止等重点措置」が、8月20日から9月12日の間、山梨県に適用されることになった。

9月7日に開講予定であったが、重点措置適用の下では講座の会場が確保できない。また重点措置延長の可能性など今後の状況が見通せない。このような事情により、第7回基礎講座を中止することにした。13名の受講

申込み者には直ちに連絡し、また協力いただいた支部員全員にはメールとハガキでお知らせした。

今回は残念だったが、来年度の第8回基礎講座を開催に向けて、今後検討を進めていく。

## 第4回田部祭

大澤 純二

田部重治は、木暮理太郎とともに奥秩父の山や溪谷の素晴らしさを紹介したことで知られている。田部祭は、田部の功績を顕彰するため、西沢溪谷を抱える山梨市に、山梨支部が強く働きかけて始まったものである。平成30年に「第1回田部祭」が開催された。昨年はコロナ禍で中止になったが、今回に至っている。

令和3年5月16日（日）、西沢溪谷入り口の田部重治文学碑前で第4回田部祭が開催された。2年目に入ったコロナ禍は小規模ではあったが、式典の規模を最小限にとり方針のため一般参加者はほとんどなく、主催者ほか30名ほどが参列した。山梨支部からは15名が出席した。

朝からの小雨がようやく上がり、式典が始まった。山

梨市観光協会三富支部長・雨宮巧氏から、主催者としてのあいさつと田部重治の功績の紹介があった。

大正4年、田部（英文学者）は木暮理太郎（日本山岳会第3代会長）、中村清太郎（画家）と3人で笛吹川上流の東沢溪谷を廻行した。田部はこの時の経験を紀行文「笛吹川を廻る」に記し、これが奥秩父、とりわけ東沢の溪谷美を広く世に伝えることになった。今では西沢溪



田部重治文学碑の前で

谷を訪れる人の方が圧倒的に多いが、まず登山者の注目を集めたのは東沢である。西沢は、戦後、地元の苦勞により溪谷道が拓かれてその知名度が高まり、現在では山梨県を代表する景勝地になったが、その礎を築いた田部の貢献は極めて大きいものがある、とのことであった。田部と木暮はその翌年、翌々と東沢の廻行を試み、3回目（大

正6年)に甲武信ヶ岳頂上に立つことに成功している。引き続き、日本山岳会山梨支部北原孝浩支部長により、碑前への献花が行われ、式典は終了した。

その後、山梨支部員は二つのグループに分かれ、西沢溪谷周回ハイキングとシヤクナゲ、ミツバツツジなど花々の鑑賞を楽しんだ。

## 第62回木暮祭

北原 孝浩

10月17日前夜から降り続いた雨も止み、この秋一番の冷え込みの中、第62回木暮祭は地元北杜市長上村英司氏、公益社団法人日本山岳会副会長坂井広志氏の他、日本山岳会山梨支部員やその他山岳関係者が多数参加して開催された。来賓の方々、関係者の挨拶に加え、矢崎茂男会員による演題「木暮理太郎と奥秩父」のミニ講演が行われた。

木暮祭は奥秩父の山々を登山の対象として世に広く紹介した木暮理太郎氏(明治6年〜昭和19年、日本山岳会第三代会長)の遺徳を偲んで、毎年10月の第3日曜日に山梨県北杜市須玉町の増富ラジウム峡の奥、金山の木暮

理太郎顕彰碑の前で行われる。

この顕彰碑に埋め込まれた木暮翁の胸像レリーフは、現在の顕彰碑がある場所より奥、標高の高い所の岩に埋め込まれてあったが、昭和34年の台風七号で岩が傾き、付近の崩壊はなはだしく建設当時の美しい原生林は見る影もなくなってしまうた。このため、日本山岳会、石楠花山岳会、霧の旅会、山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨



碑前でのミニ講演

支部、増富ラジウム峡観光協会の六者が木暮碑委員会を立ち上げて再建に着手し、寄付金を集めて現在の場所に新しい顕彰碑を造り、胸像レリーフを再び埋め込んだ。この碑の除幕式は昭和35年10月8日に行われた。除幕式には当時日本山岳会第九代会長の日高信六郎氏が参加した。これが第1回の木暮祭で以後

毎年10月第3日曜日にこの場所で木暮祭が行われるようになった。碑の真正面には木暮翁が生涯愛でた金峰山が望まれるが、樹木の枝が伸びて建設時の光景とはいささか相違しているものと思われる。

この碑は2トンの重さがあり、道路も現在のように整備されておらず、当時落合(現リーゼンヒュッテ近くの木賊峠と金山への分岐地点)から先の凡そ2kmの傾斜のある山道を増富の方々が人力により運び上げたものである。碑の裏側には日高信六郎日本山岳会会長による「由緒書き」、および木暮碑委員会による碑の「いわれ」の銅版が埋め込まれている。

木暮碑委員会は当初から半世紀以上経過し、高齢化などの状況から現在は増富ラジウム峡観光協会、山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨支部(事務局)で構成し運営されている。

なお、増富ラジウム峡観光協会主催の恒例の「ほうとうを楽しむ会」は新型コロナウイルス感染防止のため、昨年引き続き中止となった。

山梨支部が木暮祭にあわせて実施の記念山行は木暮理太郎碑の南側の至近距離にある甲斐百山の五里山で実施した。

## 山岳レインジャー活動報告

古屋 寿隆

昨年に引き続きコロナ禍ではあるが、山梨県山岳連盟では、山梨県からの委託事業として山岳レインジャー活動を実施することになった。当支部では下記山域において、山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例で特定された希少高山植物および絶滅危惧種等の調査を行った。

6月30日～7月1日 白根三山(探索調査)

メンバー…北原孝浩、池田新二郎、上田謙治、古屋寿隆

コース…広河原―嶺朋ルート―ポーコン沢の頭―八

本歯コルートラバース道―北岳山荘(泊)

―トラバース道―北岳―肩ノ小屋―草す

べり―白根御池―広河原

調査内容…嶺朋ルートおよびポーコン沢の頭から八本

歯の科尔間の希少高山植物調査が目的で

入山したが、嶺朋ルートは登山者があまり

入っている様子がなく、ルートはやや

荒廃、ルート下部においてラン科3種が

散見された。ポーコン沢の頭から八本歯

の科尔間は各種高山植物が豊富に開花していた。(場所・種名等の詳細略、以下同じ。)

古屋 寿隆

## 全国山岳古道調査報告

7月15日～16日 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳(探索調査)  
メンバー…北原孝浩、池田新二郎、白田昌美  
コース…竹宇駒ヶ岳神社―黒戸尾根―七丈小屋(泊)  
―甲斐駒ヶ岳(往復)  
調査内容…黒戸尾根下半部において、ラン科2種が開花していた。  
7月26日～27日 鳳凰三山(探索調査)  
メンバー…大澤純二、古屋寿隆  
コース…広河原―白鳳峠―高嶺―地藏ヶ岳―賽の河

原―鳳凰小屋(泊)―観音岳―薬師岳―薬師岳小屋―南御室小屋―夜叉神峠  
調査内容…登山道周辺でタカネビランジは満開、鳳凰固有種のホウオウシヤジンはかろうじて2株開花していた。

公益社団法人日本山岳会の創立120周年記念事業として、全国各支部は2021年度から山岳古道調査に着手した。当山梨支部も1. 金峰山古道(御嶽道) 10ルートと、2. 南アルプス北部山岳古道9ルートを調査対象として選定し、それぞれ担当班を結成した。調査期間は5年間、2025年度に本部では書籍出版およびホームページに掲載し、忘れ去られようとしているいにしへの登山道を歴史的、文化的に記録に残し、後世に伝えていく予定である。

当支部の担当古道は下記のとおり。本年度は主に資料調査、来年度以降実査予定である。

### 1 金峰山古道(御嶽道)

金峰山は、平安時代に信仰の山として開山、五丈岩の根元に蔵王権現をまつり、修験道の道場となった。特に南北朝の時代には、吉野の大峰に擬して全国の山伏・修験者が入峰修行したといわれている。そこへ参詣するための道を御嶽道という。『甲斐国志』によると、県内では、江戸時代に参詣のための「御嶽9筋」

と呼ばれる登山ルートが整備された。(南口…①吉沢  
②亀沢 ③塚原、東口…④上万力 ⑤西保 ⑥袖口、  
西口…⑦穂坂 ⑧江草 ⑨小尾) これら9ルートのほ  
か長野県川上村からの1ルートを加え、10ルートとす  
る。(参考資料…「ふる里自然観察路ハンドブック」甲  
斐市 令和2年10月)

## 2 南アルプス北部山岳古道

明治・大正時代以降、ウオルター・ウエストン、アー  
ネスト・サトウ、木暮理太郎、朝香宮らが黎明期の日  
本南アルプスを開拓した時代に、登山道として利用し  
た生活道等で、現在は廃道となっている下記の古道を  
調査・発掘する。

① 芦安↔ドノコヤ峠↔奈良田 ② 夜叉神峠↔五葉  
尾根↔広河原 ③ 夜叉神峠↔鮎差 ④ 平林↔池の茶  
屋↔西山峠↔奈良田 ⑤ 鯨沢↔出頂茶屋↔足慣(馴)  
峠↔西山温泉 ⑥ 切石↔十石峠↔新倉↔伝付峠 ⑦  
荒川本谷↔細沢↔農鳥岳・間ノ岳 ⑧ アーネスト・サ  
トウの登山道(奈良田↔広河内岳↔農鳥岳・間ノ岳↔  
荒川本谷↔鮎差) ⑨ 大武川↔赤薙沢↔早川尾根↔広  
河原峠↔広河原(参考資料…各市町村誌他山岳文献)



ある岳友の死

小宮山 稔

長野から1通の葉書が届いた。病氣療養中だったWが1月12日自宅で家族に見守られながら亡くなったとの奥さんからの知らせだった。

Wは大学の山岳部の岳友で、卒業後も何かにつけ連絡を取り合う間柄だったことから、寂寥感で胸がいつぱいになった。

一昨年の暮れ、体調が悪いとの知らせを受け、妻と二人GOTOトラベルを利用した善光寺参りを口実に彼に会いに出掛けた。しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延の折、子供たちとも会っていない彼は、私とも会うことはできないと云い面会を断られてしまった。一抹の寂しさは募るが、久しぶりの妻との外出で思いがけず善行寺のプロジェクトマッピングも観ることができ、心洗われる有意義な時間を過ごせたことを彼に感謝した。

彼は大学2年の時に山岳部に入ってきた。同じ農学部

だが学科が違う農業経済学科なので顔は知らなかった。山岳部での1年の違いは技術的に雲泥の差ができる。そのため彼と一緒に登った山の思い出は多くない。どちらかといえば下宿生活の思い出のほうが多い。

しかし、4年生の冬二人で北アルプスの餓鬼岳から槍ヶ岳を目指した山行は波乱に満ち、思い出深いものだった。そもそも、冬の餓鬼岳は燕岳や常念岳などの表銀座のメインのコースから外れているため登山者は少なく静かな山行を楽しめるはずだった。

餓鬼岳へは安曇沓掛駅からスタートした。初日は暗闇迫る吹雪の中、どちらに落ちてもおかしくないナイフリッジの上で、落ちる時はお互いに反対側に落ちようなどと冗談を言いながら眠りについた。翌日は晴天だった。トレースもなく、いつ雪崩れてもおかしくない急な雪面を、遅れ気味のWを尻目に胸までつかりながら必死にラッセルした。やっとの思いで稜線に出た時は安堵で胸をなでおろした。

主稜線に着き遙か遠くの槍まで向かう途中の餓鬼岳の小屋で、一人たらずむ女性から同行者が雪崩に巻き込まれたので助けてほしいと求められた。燕岳に向い稜線の遭難現場で、Wを稜線に残しデブリで締まった沢を下降

すると、数人が雪に埋もれた男性の登山者をぎこちない手つきで掘り起こしていた。男性は数日前に雪崩に巻き込まれたらしい。数時間の後、主稜線から救助隊の人たちが下ってきた。遭難者を寝袋に収容し全員で稜線まで吊り上げ、ヘリに収容し戻って行った。山での遭難に遭遇するのは1年生の吉田大沢以来2度目だが、雪に埋まった男性の顔を正視することができなかった。

その夜、小屋で遭難したパーティーから差し入れをいただいた。普段僕らが山で食べているものと明らかに違う豪華なものだった。翌朝、遭難で出鼻をくじかれたWと私は槍までの縦走をあきらめ下山することとした。帰途、春の息吹が感じられる安曇野の道端にたたずむ石仏を眺めながら、二人でとぼとぼと駅まで歩いた。これがWの山岳部での最後の山行だったと思う。

当時のWの足跡を思い出そうと、母屋の奥からザラ紙にガリ版で印刷された山岳部の報告書を引っ張り出した。紅茶のように茶色く変色し文字のかすれた報告書には、この山行の記録は残っていないが、彼の書いた文章や筆跡は残っていた。そこには彼が歌った山の子の歌「山の子は 山の子は みんな仲良し」や、卒業した2年後にWから私に送られた冬の裏戸隠の単独行の計画

書もあった。

青春時代を共に過ごした岳友がいなくなることは本当に寂しい。45年前アルパムの中でWと私は一緒に笑っていた。少し早すぎる死だが、冥土ではかってヒマラヤで遭難死したOBの慶野さんに久し振りに会えたかもしれない。

「ウヒヨ、W君久しぶりだね。歳を取ったね」なんて声を掛けられているのかもしれない。

思い出を共有する友が消えてゆく 言葉にならない寂しさよ。霊前に春の花を贈ろう。

## 『道祖神の口笛』

(滑志田隆著 論創社 2021年)

矢崎 茂男

著者の滑志田隆(なめしだ たかし)さんは本支部会員。毎日新聞記者として活躍したのち、東京農業大学客員教授などを経て、現在、農林水産省国有林技術開発検討委員、国土緑化推進機構事業評価委員を務める。小説や俳句も手がけるなど、広範な活動を続けている。

『道祖神の口笛』は著者2作目の小説集である。4編が収録されている。作品ごと、著者の問題意識が知的好奇心を刺激する。ここでは3編目の「ボートは沈みぬ」について、記述をたどりながら読後感を記すことにする。

※

※

明治43年1月、中学生ら12人が乗ったボートが七里ヶ浜沖で転覆し、全員が水死する事故が起きた。「逗子開成中学ボート遭難事故」である。2週間後に執り行われた遭難生徒追悼大法会で、兄妹校・鎌倉女学校生徒が斉唱したのが「七里ヶ浜の哀歌」。この曲は同校教諭の三角錫子（本名・三角寿々）が、『明治唱歌集』から選んだ旋律に6番までの歌詞を付けたものである。三角は東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）出身の数学担当教師だが、音楽にも秀でた教員だった。大法会での斉唱の際、生徒達は涙に暮れて歌唱は途切れがちとなり、三角が伴奏するオルガンの音色だけが会場に響いた。この曲は大正4年にレコード化され、「真白き富士の根（嶺）」として広く愛唱されるようになる。三角は作者として全国に知られる教師になった。翌年、東京に創設された常磐松女学校の初代校長に就任。大正9年に

49歳で亡くなったが、校長として敏腕を発揮し学校の基盤を築いたという。

石塚巳三郎は逗子開成中学校で社会科を担当していた教師である。三角とは見合い話もあった。事故の前年に赴任し、学生寮の舎監も努めていた。事故は生徒たちが出艇許可を得ずに蛮勇を誇示すべくボートに乗り出したために起きた。艇庫の管理も担当していた石塚は、自責の念に駆られ不眠不休で捜索の先頭に立った。事故は当初、生徒らの無断出艇が招いた遭難と受け止められていたが、世論は次第に、杜撰な生徒指導・ボート管理など学校側の怠慢が招いた「事件」との見方に傾いていく。大法会での僧侶の学校責任を追究する大喝、母親たちの「わが子を還せ」の叫び……。この後間もなく、石塚は辞表を出して学校を去った。長男で作家の宮内寒彌氏は、小説『七里ヶ浜』で、事件後の父の生き様を書き残した。「実名を新聞紙上で発表されたり、誤解に基づく濡衣を着せられたりして、遺族その他の恨みを買うに至ってもいた父は、養子縁組によって改姓した池上巳三郎として」世を渡ったのだと。事件の真相を知り正しく書くことによって、宮内氏は父の無念と自身の屈辱を晴らすことができた、著者はそう伝えている。

田邊新之助は事故当時の、逗子開成中学校校長である。事故で引責辞任することなく、以後14年間、校長職に留まったという。石塚巳三郎とは身の処し方が大きく異なっているように見える。しかし事故が事件へと変質していき、学校管理者としての責任は想像を絶する荷重となった。田邊は苦悩し、容赦のない世評と長いあいだ闘った。莫大な損害賠償の支払いにも奔走し、学校存続に命を賭したのである。田邊の長男は、『哲学入門』で知られる田邊元である。田邊の哲学は、「実社会に生きる絆の重視」を主張しながら完成に向かったという。これは教育者として社会的責任を全うした父・新之助の生き方に影響された展開だったと著者は言う。

著者のお母さんの実家は、現藤沢市本鵠沼駅の近く。高齢のお母さんは、時々思い出したかのように「真白き富士の嶺、緑の江ノ島・・・」と歌い出す。そして「なんであのボートは七里ヶ浜で沈んでしまったのかしら」と問いかける。「あとがき」で、著者は母の素朴な疑問に答えつつ、事故・事件に関わった三人の運命を比較することによって、宿題の一つを果たしたつもりだと述べている。読者も、著者と一緒に安堵に浸ることができる。これは、多くの人の研究成果を取り入れながら、絆でつ

ながる様々な人を登場させて答えを導き出そうとする著者の執筆姿勢が、説得力を持つからだろう。密度の濃い短編である。

## 『山を振り返る』

（矢崎茂男著 山羊書房 2021年）

深沢 健三

「やっぱり山っていいなあ」。矢崎さんの近著『山を振り返る』を読んであらためて感じた。山と山を巡る人たちの出会い、山があるからこそその感性の輝き、そして未知との遭遇。山登りは人生に例えられる事が多いが、この本からは矢崎さんの山への思いが伝わってくる。山とどう向き合うか、山から何を受け止めるのか、感じる事ができるのか、登った山の数ではなく、精神的にどう山と一体になるか。さらに家族、仲間との交友録から伝わる人間味。様々なことを感じさせる本である。

「オコジヨの教え」という項がある。大双里の山頂でのこと。

「花の脇で、彼はギョロ目をいっそう大きく見開いて、

界限にくまなく目を配っている。自分より大きなウサギをも捕食する獐猛さを、オコジョは秘めているという。

もしかすると、私を獲物と思つてハンティングに現れたのかもしれない。残念なことに君が食うには、私はやや大きすぎる。ならば代わりにと、かじつていたサンドイッチのハムの一片を投げてやった。すると彼は、驚くばかりの俊敏さで岩間に飛び込んでしまった。(略)

「獐猛さは小心の裏返しである。私には思慮が足りなかった。安易であり、自己本位であった。相手の立場に立つ姿勢に欠けていた。教室で思いやりを唱え続けても、私自身にそれが欠けていたならば、空しいお題目となつて机の間をすり抜けてしまふだけである。(略)不安や不満に思いを寄せ、腹を割り、同じ目線で語り合うことを、私は一度としてしただろうか」

山頂でこんなことを考える教師なのである。



「山」はなぜ、こうも人に書く対象として選ばれるのだろうか。それは古事記、日本書紀、万葉集の時代から現代まで、途切れることなく続いてきた。これからも続いていくに違いない。しかも市井の人々の「思い」を込めて。畏敬をもつて眺める山、詩歌に歌う山、文学や紀

行、登山記など、多様なジャンルでその対象となつてきた。

登山では、多くの人が記録を取る。こんな例は登山だけだろう。そこに見たもの、聴いた音、会話や独り言まで書き残す。それは「山」が人を「無」してくれるからではないか、と私は思う。日常では見えないもの、見過ごしてしまうもの、風の音や鳥の鳴き声など聞こえるもの、感じるものが、心で受け止めることができるからではないか。

「山」には何か、はつきりと分析できない「何か」があつて、人間にこれを受け止める感性があれば、登るだけではない、別の世界が広がるのだと思う。矢崎さんの『山を振り返る』は、単なる山岳紀行ではなく、その「何か」を感じる事ができるのである。それが「何か」は、読んだ人それぞれの中にある。

## 追悼

### 田村英也君を偲ぶ

葉袋 興児

田村 英也さん 2021（令和3）年12月27日死去。

会員番号5956。

昭和32年、甲府一高に進んだ田村君は山岳部に入った。山に憧憬し、今井友之助氏、大沢伊三郎氏を崇敬する彼にしてみれば自然な選択だった。当時の一高山岳部はOB達のしごきのもと、主に南アルプス・八ヶ岳で年間を通して活動していた。彼が2年生の12月に富士山7合目で雪上訓練中、9合目付近で突風の為5人中2人が滑落死する遭難があり、その救助活動の中心的役割を担っている。

青山学院を中退して早稲田大学山岳部に挑戦していた時、家の事情で急遽家業を継ぐことになった。彼の人柄で田原屋は仲間達のオアシスとなったが、暇の無くなった彼は山への情熱の活路を山岳会に見ていたのだろうか。

平成30年2月、脳梗塞で倒れた彼は言葉を失い、寝た切りとなって、令和3年12月27日永眠した。最後に見た

夢は若き日の、間ノ岳での夏合宿だったであろうか？  
冥福を祈る。

## 新会員紹介

### 挑戦！

平松 清子

山野草が大好きで山を歩いている時に、ある方と偶然山でお会いして、私のやりたい事のお話をしました。それなら、日本山岳会山梨支部に入会すると活動ができるかと教えていただき入会しました。

私は、山や自然や植物が好きで、霧ヶ峰IPとして活動したり、暇があれば山に登って写真を撮ったりしています。この会に入会して、いままで登ることが出来なかった山への登頂を始め、登山道の整備や植物の保護、レンジャーとしての活動など、様々なことに挑戦し活動の幅を広げていきたいと思っています。

これからも、先輩方のご指導をいただきながら、いろいろな事を学びながら山を楽しみたいと思います。よろしくお願います。

## 山梨が大好きなんです

高本 英明

この度入会させていただきました、高本（たかもと）と申します。30年ほどまえに異動で山梨に赴任し、14年暮らしました。その後、日本各地に転勤、2年前に古巣の山梨に戻ることができ、週末の無雪期は山梨100名山を中心に登山、冬はスキーという生活でした。

スキークラブの指導員で山岳会山梨支部所属の先輩から山岳会のことを聞き、技術・知識ともに低レベルながら昨年入会させていただいた次第です。ようやく山岳会の皆様にご指導をいただきながら山梨ライフを満喫しようと思っていたのですが・・・入会と同時に愛知に転勤・・・まあ、愛知⇄山梨なら何とかなる、と思っておりましたが、今年1月より仙台に異動。宮城・岩手エリアの担当を命じられました。そんなことで、せっかく入会させていただいたのに、ほとんど山梨に行けない状況です。気にせず、来られるようになったら来ればいいからと、執行部の方から励ましをいただきました。

現在58歳。山梨に永住できる日を楽しみに、もう少し東北で頑張ります。皆様にお会いできる日を楽しみにし

ております。

## これからも山へ

井田 智子

気が付けば、私自身が山大好きおばさんになっていました。

12年前に、会社の山好きの方々初めて雲取山に連れて行ってもらい、雪の頂上から富士山を見て美しさに心打たれました。もっとたくさんの景色が見たい。この思いがきっかけとなり、それ以来月1、2回のペースで先輩方に付いて行き、丹沢、八ヶ岳、南アルプスなどで山行を重ねてきました。ただすべて自己流で、一生懸命登って下りてきたといった感じの山行でした。花の名前や地図の読み方、天候予測など、知識や技術をもっと向上したいと、若い頃はこんな雑誌誰が買うのかしらと思っていた「山と溪谷」を買いました。が身に付きません。この先も山に登りたいならきちんと勉強をしよう、準会員として入会させていただきました。

入会を機に、会を通じて沢山の出会いがあると楽しみにしております。また、これまで山に親しみ感動をいた

できましたので、少しでも恩返しをしたいと思えます。美化活動など、私にできるボランティア活動にも参加させていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

なことを学んでいます。また山岳会の方々から多くを教えていただいています。どうぞこれからも、ご指導をよろしくお願いいたします。

## 山に助けられ

小川 基子

私が初めて出合った山は高尾山でした。両親に連れていってもらい、楽しい思い出が残っています。それから小学校の林間学校での榛名山、中学校の林間学校での四阿山。こちらは楽しさよりも苦しきの方が印象深い登山でしたが、下山したときの小さな達成感と清々しい気持ち、何十年経った今もはつきりと思い出されます。

再び山に入るきっかけは、父が倒れ意識不明に陥ったことです。藁にもすがる思いで、願掛けを行うために富士山へ向かいました。父は3ヶ月後に他界しましたが、富士山へ向かおうと思ったときの父への強い思いと、厳しい富士登山が私を少し強くしてくれたように感じます。

今は自身と向き合って登ることによって、山から様々



令和3年度（2021年度）

●理事会・総会など（議題ほか）

令和3年（2021年）

4月17日 理事会（定時総会議案、新理事候補選出、

第7回やまなし登山基礎講座案、山岳古

道調査、『甲斐山岳』12号発行、2021

年南アルプス山小屋・テント泊の新予約

システム）

4月17日 定時総会（令和2年度事業報告・決算、令

和3年度事業計画・予算、理事1名交代）

5月12日 理事会（当面の支部山行計画、第7回やま

なし登山基礎講座案決定、支部通信6月

発行、山岳レインジャー計画）

6月9日 理事会（やまなし登山基礎講座・受講生募

集チラシ作成・受講生募集広報について、

支部山行・家族登山計画、山岳古道調査）

7月14日 理事会（第7回やまなし登山基礎講座・受

講生募集案、支部山行ほか）

8月26日 臨時理事会（新型コロナ特別措置法により

登山基礎講座中止、コロナ禍における理

事会開催について）

10月13日 理事会（10/17第62回木暮祭、山岳古道調

査、支部通信12月発行）

11月10日 理事会（支部山行・会員山行・個人山行の

募集方法・下見山行や登山届提出につい

て、支部山行・会員山行計画、10/17支

部山行五里山事故報告）

12月8日 理事会（支部山行におけるコロナ対策の周

知徹底、支部年会費滞納の取扱い、来年

度事業計画・予算・役員人事案について）

令和4年（2022年）

1月12日 理事会（4月定時総会議案のうち令和4年

度事業計画案・予算案・人事案、支部年

会費の督促・減免・免除について、支部

山行、『甲斐山岳』3月発行）

2月9日 理事会（4月定時総会議案、支部規約・規

程改定案、2022年度支部山行計画、『甲

斐山岳』3月発行）

3月9日 理事会（4月定時総会議案、支部規約・規

● 支部行事など  
程改定案、第8回やまなし登山基礎講座

※支部山行…公募登山、会員山行…支部員対象登山、  
家族登山…家族対象公募登山

令和3年(2021年)

4月18日 支部山行(茅ヶ岳・北杜市/甲斐市) 5名  
(会員外1名)

4月18日 第40回深田祭(韮崎市・深田記念公園)

4月29日 支部山行(要害山/棚山・甲府市/山梨市)  
8名(会員外3名)

5月16日 第4回田部祭(山梨市・西沢溪谷田部重治  
文学碑)

5月16日 支部山行(西沢溪谷・山梨市) 悪天のため  
個人山行に変更、18名(会員外3名)

7月11日 支部山行(高峯山・長野県小諸市) 10名  
(会員外1名)

9月25日 登山基礎講座実践登山①(茅ヶ岳・北杜市  
/甲斐市) 中止

10月2日 登山基礎講座実践登山②(高川山・都留市  
/大月市) 中止

10月9、10日 会員山行(鳳凰三山・韮崎市) 中止

10月24日 家族登山(醍醐山・身延町) 25名(会員外  
家族4組13名およびスタッフ3名)

10月17日 支部山行・五里山南峰(北杜市須玉町) 6  
名(会員外2名)

10月17日 第61回木暮祭(北杜市須玉町金山平・木暮  
理太郎記念碑)

10月31日 会員山行(雁坂峠/雁坂嶺・山梨市) 5名

11月3日 会員山行(武甲山・埼玉県秩父市) 4名

11月7日 支部山行(釈迦が岳(芦川)/三方分山)  
5名(会員外1名)

12月12日 支部山行(本栖・烏帽子岳「甲斐百山」/  
中之倉峠・富士河口湖町/身延町) 14名  
(会員外2名)

令和4年(2022年)

1月10日 支部山行(竜爪山・静岡県静岡市) 7名  
(会員外2名)

2月5日 支部山行・雪山ステップアップ講習①(北  
横岳・長野県茅野市) 中止

2月19日 支部山行・雪山ステップアップ講習②(編  
枯山/麦草峠・長野県茅野市) 中止

3月5、6日 支部山行・雪山ステップアップ講習③

(八ヶ岳東天狗岳) 硫黄岳・長野県茅野市)

8名(会員外2名)

●第7回やまなし登山基礎講座2021(コロナ禍のため中止)

第1回 9月7日 オリエンテーション、日本山岳会

について、山の天気と観天望気

第2回 9月14日 安全安心登山の基本、装備・服装・

食糧

第3回 9月21日 地図読み、山の自然保護

第4回 9月25日 実践登山1 茅ヶ岳(地図読み、

ロープワークとセルフレスキュー)

第5回 9月28日 山岳遭難、山の救急医療

第6回 10月2日 実践登山2 高川山(総合登山)

第7回 10月5日 山の文学、山梨の登山史、山岳写

真、修了式

●山岳古道調査委員会活動(金峰山古道調査班/南アルプス北部古道調査班)

令和3年(2021年)

1月20日 山岳古道調査委員会(委員会発足、金峰山

古道・南アルプス北部古道の2班を組織、

調査活動開始)

(1) 金峰山古道調査班

2月10日 班会議(今後のスケジュール打ち合わせ)

3月7日 金峰山古道南口(北山筋)グループ、亀沢

ルートのパイロット調査実施

3月13日 金峰山古道東口(万力筋)グループ、万力

金桜神社から牧丘西保下までのパイロッ

ト調査実施

(2) 南アルプス北部古道調査班

2月10日 班会議(今後のスケジュール打ち合わせ)

5月10日 芦安ノドノコヤ峠間実地調査

12月22日 班会議(今後の実地活動スケジュールなど)

●山梨県山岳レインジャー活動

令和3年(2021年)

6月30日、7月1日 北岳、探索調査、古屋寿隆ほか

3名

7月15日、16日 甲斐駒ヶ岳、探索調査、北原孝浩ほか

か2名

7月26、27日 鳳凰三山、探索調査、古屋寿隆ほか2名

●機関誌発行(『甲斐山岳』「支部通信」)

令和3年(2021年)

6月30日 支部通信 第3期第10号

12月20日 支部通信 第3期第11号

令和4年(2022年)

3月31日 『甲斐山岳』第13号

●令和3年度(2021年度) 会員異動

正会員に移行

令和3年4月 会員番号 16730 中川恵美子

入会

令和3年4月 会員番号 16760 川島万里子

令和3年5月 会員番号 16786 平松 清子

令和3年7月 会員番号 16815 高本 英明

令和3年8月 会員番号 A0404 井田 智子  
(準会員)

令和3年9月 会員番号 A0405 小川 基子  
(準会員)

退会

令和3年4月 会員番号 13542 石川 正昭

令和3年6月 会員番号 6446 石垣 政雄

令和3年12月 会員番号 5956 田村 英也  
(死亡)

令和4年3月 会員番号 8780 神山 良雄

(支部退会)

# 《日本山岳会山梨支部・会員名簿》

(2022.3.31 現在・72名 会員番号順 \*印は永年会員)

会員番号	氏名	会員番号	氏名	会員番号	氏名
2525	中尾 正武*	12069	長沢 洋	16290	荏原由美子
4548	今澤 寛*	12111	中田 一郎	16499	窪田 光一
5350	浅川 瑞穂*	12213	鈴木 勝彦	16553	勝倉 修一
5657	清水日出勇*	12396	遠山 若枝	16691	小嶋 数文
5687	山寺 義雄*	12561	古屋 寿隆	16693	河野 芳尚
6653	遠藤 靖彦	12569	磯野 澄也	16730	中川恵美子
7299	許山 隆	12913	青木 茂	16760	川島万里子
7517	山本 稔	13443	中村 光吉	16786	平松 清子
7728	久保田明宗	13669	矢崎 茂男	16815	高本 英明
7730	内藤 順造	13816	鈴木 伸介	以上 正会員 63名	
7831	堀口 丈夫	14065	北原 孝浩	A0217	河野 泰
8064	望月阿香実	14263	平松久美夫	A0243	上田 謙治
8145	梅本 実	14440	露木 弘光	A0251	高橋みゆき
8334	小林 啓助	14653	萩野有基子	A0259	黒沼 英美
8780	神山 良雄	14785	小杉 秀夫	A0297	河内 幸子
9089	萩原 賢司	14821	大澤 純二	A0332	相川 修
9336	羽田 政人	14827	野口 健介	A0361	大城 丈典
9634	滑志田 隆	14860	林 静雄	A0404	井田 智子
10920	深沢 健三	15517	堀内 久光	A0405	小川 基子
11028	葉袋 興児	15569	渡辺 峯雄	以上 準会員 9名	
11326	斎藤 英子	15577	川手 一正		
11350	足立 英二	15720	小宮山千彰		
11352	小宮山 稔	15833	末木佐登子		
11408	斎藤 忠文	15958	大澤さな枝		
11518	所 一路	16140	長坂 公貴		
11652	角田 元	16210	池田新二郎		
11823	秋山 泉	16268	臼田 昌美		

## あとがき

新型コロナウイルスに翻弄されて2年が経過した。ワクチンや治療薬の開発・供給が進んだが、今後に変異に伴う新たな対応に追われるのだろうか。原始生物の巧みな生命力には驚愕するばかりである。

しかしながら、今年度は支部活動を一定程度再開し、本機関誌もコロナ禍以前に近い内容に戻した。分けても支部山行は月一度のペースで実施し、「山岳会」の面目を施すことができたことは幸いである。一方で「第7回やまなし登山基礎講座」を始め、昨年度に続いて中止となった事業もある。支部が積み上げてきた活動の、全面再開が待たれるところである。

今号では、新会員4人から入会挨拶文を寄せていただいた。会員の増加は支部活性の原動力。喜ばしい限りである。

題字 高室陽二郎

表紙 遠山 若枝

# 甲斐山岳 第十三号

令和四年三月三十一日発行

発行 公益社団法人日本山岳会山梨支部

発行者 北原 孝浩

編集 矢崎 茂男

支部事務局住所

〒400-0101 一八

甲斐市竜王三〇二二一 古屋寿隆方

